

バレーボールにより悪化した腱板炎

平成27年5月28日

青森県 梅澤 拓

本症例は、思い当たる原因なく発症しているが、臨床症状や診察所見、治療経過などからバレーボールによって悪化した腱板炎と推測した症例である。

症 例：40歳 女性 主婦

初 診：平成24年11月8日

主 訴：右肩関節外転時のズキンとした痛み

現病歴：平成23年11月頃から右肩関節を90度ほど外転すると右肩関節が全体的に少し痛む感じが出てきた。思い当たる原因はない。日常生活に支障がなかったため、病院の受診はしていない。ストレッチや自分でマッサージをして、行った直後は楽であった。周りの人に肩関節が固まると言われたので、グルグルと右肩を回したりしていた。

平成24年9月頃になると、右肩関節を90度以上外転した時の痛みが強くなり、右腕を動かさない時にも、時々痛みを感じるようになってきたので、病院を受診した。その際に、X線検査、MRI検査の結果、腱板損傷と診断された。病院にてヒアルロン酸注射を2回行ったが、特に変化は感じられなかった。市販の湿布薬を貼ったり、自分でマッサージをしていた。

現在は上着の着脱時や高所の物を取る時に、右肩関節の前面や外側部にズキンとした痛みがあり、右肩関節外転位で右腕を引く時に右肩関節の前面や外側部の痛みと、右肩関節の後面や右肩甲骨付近が突っ張る感じがする。(図1) 自発痛、夜間痛なし。拳上障害、結帯障害、結髪障害あり。頸の運動による愁訴の誘発なし。持ち上げ痛あり。仕事は専業主婦で、布団の上げ下ろしや洗濯物を干す時に痛みが出る。スポーツは、7年前からバレーボールをしており、現在は週2回(火曜日、金曜日)行っている。レシーブで腕を持っていかれる時やオーバートスをする時に痛みが出る。又、サーブやスパイクはしない様になっている。アルコールは飲まない。

既往歴：特記すべきことなし

家族歴：特記すべきことなし

診察所見：右肩関節の発赤、腫脹、三角筋の萎縮は認められない。熱感右結節部に認められる。外旋障害陽性。ヤーガソンテスト、スピードテスト、ストレッチテスト陰性。有痛弧症候は陰性、110°で痛みの誘発があり、疼痛が

表1 初診時の診察所見

五十肩

平成24年11月8日

1	発赤	左	右 -	12	棘上筋	左	右 -	17 圧痛 鳥口 肩峰 結節 肩峰 天宗
2	腫脹	左	右 -	13	棘下筋	左	右 -	
3	三角筋	左	右 -	14	物指	左	右 -	
4	熱感	左	右 +	15	結節	左	右 +	
5	外傷	左	右 +	16	結節	左	⊖ + 6	
6	ヤーガソン	左	右 -			右	⊖ 21.5	
7	スピード	左	右 -	8.11-				
9	有痛弧	左	右 -	9.110°で痛みの誘発、180°まで 外転可能な痛みは消失はない。				
10	外転	左 - +	右 (○)					
8	ストレッチ	11 番 下						

(医道社)

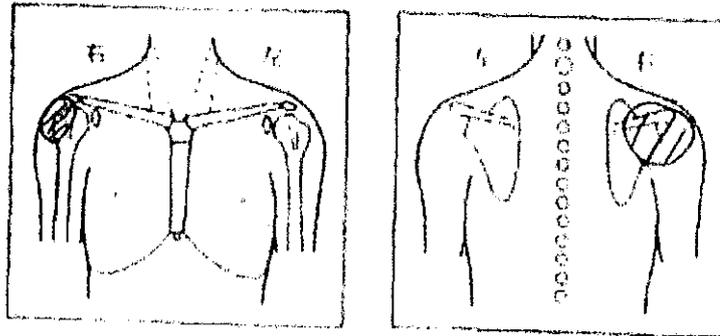


図1 疼痛域